

12月議会を開催しました

平成29年第5回高梁市議会定例会が、12月4日から22日までの19日間、開催されました。市長提出の議案14件のうち、1件を認定、13件を原案通りの可決としました。また、団体などから議会に寄せられた請願については、1件を不採択としました。

一般会計補正予算として1億6585万9000円が計上され、総額236億9810万1000円（前年度比マイナス7.5%）とする議案を含め、議案14件が市長から提出され、審議の結果全て原案通り可決しました。また請願については賛成少数で不採択となりました。

本会議初日終了後には、平成30年度予算要求概要として、一般会計では、歳入予算要求額が223億4378万4000円、歳出予算要求額が242億5401万1000円であり、予算要求段階では19億1022万7000円の収支不足であり、無駄を徹底的に

洗い出す取り組みについて報告がありました。一般質問では、議員13名が39項目にわたって市政について質問しました。議会最終日には、平松賢司議員が討論を行いました。討論の内容は次のとおりです。

「平成29年度高梁市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）」について

当初一般会計から繰入を計画していたが投入せず、昨年度国保税引き上げがある中で3000万円国保基金に積み上げた。市民負担の軽減に努めるべきであり、この議案には反対する。

「日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書採択を求める請願」について

和賞に国際NGO「ICANN」が授賞され、世界の流れは核兵器廃絶に向かっています。世界の多くの国々からも日本政府の態度に厳しい目が向けられているなか、条約の調印を求めるべきで請願の採択を求める。

最終日に市長から、「成羽複合施設（仮称）がこれから実施設計に移り、新年度予算で建設に係る事業費などを計上する予定です。節目節目において議会の皆様、関係団体、市民の皆様



12月定例会で賛否が分かれた議案等の議決結果

件名	議員															
	森	平松	伊藤	森上	石部	三村	石井	黒川	石田	内田	宮田	小倉	川上	川上	宮田	大月
平成29年度高梁市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	○	●	○	○	●	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○
日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書採択を求める請願	●	○	●	●	○	●	●	●	●	欠	○	●	●	●	●	●

○：賛成 ●：反対 欠：欠席
◎他の議案は全会一致で可決しました。 ◎議長は裁決に加わりません。



総務文教委員会 請願は不採択に

平成29年度高梁市一般会計補正予算（第4号）
委員 成羽総合福祉センターの施設等除去工事費、高梁市民体育館前の工作物移転補償費について積算が甘いのではないか。

執行部 成羽総合福祉センターにおいては屋上の空調設備と地中梁撤去での補正であり、高梁市民体育館前については、木造と認識していた躯体が一部木造でなかったため補正である。

委員 今後の施設解体には目視だけでなく図面と照らし合わせるのほもちろん、しっかりと積算を望む。

日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書採択を求める請願

世界の流れは核兵器廃

絶であり、日本が批准するために、意見書採択を求めるとの意見や、国の判断に委ねるべきで、当市議会が、あえて意見書を出す必要はないのではないかとの意見があり、採決の結果不採択となりました。



産業経済委員会 道路建設を正す

平成29年度高梁市一般会計補正予算（第4号）
委員 落合高倉線で3380万円の補正があがっている、法面の工事で3月末完成と聞いているが、間に合うのか。

執行部 工程的に厳しいかもしれないが3月末を目指して精一杯努力していく。

委員 地域住民からも早期の通行止め解除の声をいただいている、委員会としても注視していき



市民生活委員会 保育士人材確保を

平成29年度高梁市一般会計補正予算（第4号）
委員 私立保育所委託料は、単価改定の見直しによる補正だと聞いている。保育士の給与だけを特別扱いするのは難しいかもしれないが、公立保育園でも単価改定による職員の処遇改善はあるのか。また、保育士の確保を市は考えているか。

執行部 保育士の給与は、市の給与条例に基づいて支払っている。保育士の人材確保は現在非常に厳しい状況にあるので多方面から人材確保の方法を考えている。

議会 報告会

第9回議会報告会を開催しました

11月7、8、13、14日 計140人でした。

この報告会は、議会基所第9回議会報告会が開催されました。今回の報告会では、9月議会の報告や政務活動費についての説明、「地域の街づくりについて」というテーマで意見交換が行われました。

会場は旧中学校区単位で開催され、参加者は総質問で取り上げることがあります。

若い年代の参加者が少ないなど課題も多くありますが、今後も、市民の声を市政に反映するための場所として、さまざまな地域、年代、立場の人たちから話を聞くために活動を続けていく予定です。



↑川面会場の様子